

果樹胴枯細菌病（急性枯死症）対策技術ガイドブック

果樹胴枯細菌病は、ナシ・モモ・リンゴなどのバラ科果樹の幼木での発生が多い病害です。発病した樹は夏季から秋季にかけて赤褐色のアルコール臭を発する樹液を漏出して、急速に枯死してしまう場合があります。本病に有効な登録薬剤はないため、対策として有効だと考えられる耕種的防除法をガイドブックとして公開しました。

☆ 技術の概要

1. ガイドブックは①病気の概要を説明した「総論部」、②ナシ・モモ・リンゴの樹種ごとに、本病の病徴と類似の病害や症状、および両者の見分け方、対策技術などをまとめた「各論部」、③診断のための半選択培地等の生物学的検出法や、PCR法・LAMP法等の遺伝子検出法をまとめた「参考情報」の3部構成になっています（下図左）。
2. 一般的に病害は、不適な条件下で下図右に示した「主因（胴枯細菌病菌）」、「素因（果樹）」、「誘因（環境）」の3要因が重なったときに発生するリスクが高まります。そこで果樹胴枯細菌病では、各要因に対して四角の中に記された対策（ガイドブック中で紹介）を行い、要因の重なり合いを減らすことで、病害の発生を抑えます。
3. 本ガイドブックは都道府県病害虫防除所、公設試等の技術者に向けた内容となりますが、生産者がわかりやすいように本病やその対策を解説した「リーフレット」も作成しました。ガイドブックとリーフレットは、以下のURLからどなたでもダウンロードできますので、ぜひ現場でご活用ください。

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/168711.html

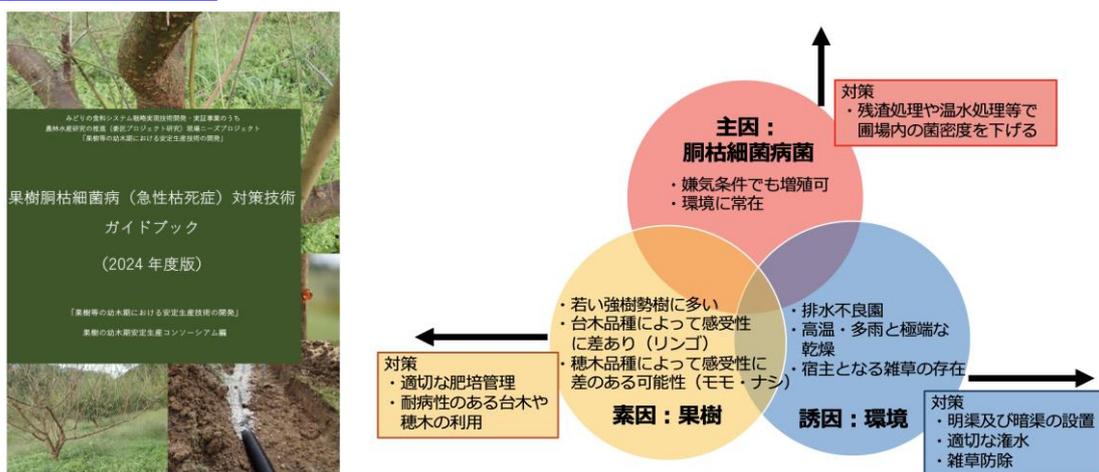


図. ガイドブック（左）および病害発生の3要因と果樹胴枯細菌病の防除（右）

☆ 活用面での留意点

ガイドブックで紹介されている防除技術は令和6年度までに得られた結果に基づいており、今後も処理した樹への長期的な効果を観察していく必要があります。

※本成果は農林水産研究推進事業（JPJ008720）（2020～2024年）にて得られました。

（農研機構・植物防疫研究部門 佐々木厚子）